

国内電炉メーカー初 年間 1,600トンの水素ガス燃焼の実用化 ～2030年に知多工場年間 10,000トン CO₂ 削減へ～

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、2030年を目途に知多工場（愛知県東海市）に設置予定の水素製造装置から供給される水素ガスを活用し、一部の鋼材加熱炉において水素ガス燃焼の実用化を進めます。

この取り組みは、豊田通商株式会社、株式会社ユーラスエナジーホールディングスおよび岩谷産業株式会社の3社が、再生可能エネルギー由来の電力で低炭素水素を製造・供給する「オンサイト型モデル」での事業開始を目指し進めるものです。

当社は、「環境に一番やさしい鉄屋」として、これまでも、省エネの深化・追求、再生エネルギーの活用、脱炭素技術の開発・導入を軸に、工場ごとのロードマップをブレイクダウンし、カーボンニュートラルへの積極的な取り組みを進めてきました。

本取り組みにより、一部の鋼材加熱炉にて水素ガス燃焼を行うことで、知多工場において年間でCO₂排出量約10,000トンの削減が見込まれるなど、カーボンニュートラル実現に大きく前進します。

当社は今後も、中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議※とも相互に協力しながら、カーボンニュートラルの早期実現に向け取り組んでまいります。

※ 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、中部圏において水素及びアンモニアの社会実装を地元自治体や経済団体が一体となって実施するために2022年2月に設立された会議体

